

社会資本総合整備計画 事後評価

(道路ネットワークの構築と中心市街地の賑わいづくり)

令和元年 10月

長野県駒ヶ根市

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和元年10月3日

計画の名称	道路ネットワークの構築と中心市街地の賑わいづくり		
計画の期間	平成25年度 ～ 平成29年度 (5年間)	交付対象	駒ヶ根市

計画の目標

当市では、「人と自然にやさしいはつらつとした文化公園都市」を将来都市像とし、「安全で調和のとれた【住みたいまち】」を政策の大綱のひとつに掲げている。しかしこれまで人々の交流の中で地域の伝統・文化を育み、市の発展を支えてきたJR駒ヶ根駅周辺の中心市街地では、公共交通機関の利用者減少や郊外型大型店の進出などにより、市民のにぎわいの拠点としての役割が低下しつつあり、空き店舗の増加や居住人口の減少等の諸問題が深刻化している。

そこで、地域住民の生活基盤と産業振興基盤が調和した安全安心快適で活力あふれるまちづくりを目指し、中心市街地と市内各拠点を結ぶ道路ネットワークの構築を図ることで、地域コミュニティの中核である「中心市街地の賑わいづくり」を進めることを目標とする。

計画の成果目標 (定量的指標)
<ul style="list-style-type: none"> 1 駒ヶ根市の生活環境・暮らしやすさに対する総合満足度の向上 2 駒ヶ根市の施策に対する市民満足度の向上 3 道路ネットワークの構築と中心市街地の賑わいづくりの成果目標

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況地及び目標値		
	当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)
1 駒ヶ根市市民満足度調査により「今の生活環境や暮らしやすさ」の満足度を算出する。 「今の生活環境や暮らしやすさ」について満足・どちらかといえば満足と回答した市民/全回答者数 (%)	66.7 %	68.0 %	70.0 %
2-1 駒ヶ根市市民満足度調査により「交通利便性の充実」の満足度を算出する。 「幹線道路整備」及び「交通の利便性」の市民満足度ポイント (pt)	3.15 pt	3.20 pt	3.25 pt
2-2 駒ヶ根市市民満足度調査により「都市基盤の充実」の満足度を算出する。 「生活道路整備」及び「歩行者に安全な道路」の市民満足度ポイント (pt)	3.00 pt	3.05 pt	3.10 pt
2-3 対象路線の路面点検による舗装の健全率を算出する。 (舗装の健全率) = Σ (対象路線の舗装修繕必要延長) / Σ (対象路線の延長)	23.8 %	100 %	100 %
2-4 駒ヶ根市市民満足度調査により「自然・共生」の満足度を算出する。 「自然の大切さを学び伝える機会に恵まれている」の市民満足度ポイント (pt)	3.03 pt	3.07 pt	3.12 pt
3-1 幹線道路の整備率を算出する。 整備区間延長 ÷ 幹線道路総延長119.6km (%)	77.1 %	78.5 %	79.9 %
3-2 道路交通量調査により自動車交通量を算出する。 中心市街地のメイン通りである広小路通りの自動車交通量 (台数/1日あたり)	7,245台/日	7,500台/日	8,000台/日
3-3 道路交通量調査により歩行者交通量を算出する。 中心市街地のメイン通りである広小路通りの歩行者交通量 (人数/1日あたり)	655人/日	700人/日	750人/日

全体事業費	合計 (A+B+C)	2,369.6 百万円	A	2,354.9 百万円	B	0 百万円	C	14.7 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.6%
-------	---------------	----------------	---	----------------	---	----------	---	-------------	---------------------------	------

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
5-C2-1	道路事業（5-A2-1）と一体的に沿道整備を実施することにより、沿道のまちづくりによる市街地の賑わいにぎわいが期待できる。	
5-C2-2	道路事業（5-A2-9）と一体的に実施することにより、高速交通網（三遠南信自動車道・リニア新幹線）整備を視野に入れた、道路ネットワークの構築の効果が期待できる。	
5-C3-1	道路事業（5-A2-3、4、9）と一体的に実施することにより、山麓地域の道路ネットワークの構築の効果が期待できる。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 市道の整備、現道拡幅等を行った結果、道路利用者の利便性が向上した。 歩道整備を行うことにより、地域住民など歩行者の安全性が向上した。 			
II 定量的指標の達成状況	指標① 「今の生活環境や暮らしやすさ」について満足・どちらかといえば満足と回答した市民/全回答者数 (%)	最終目標値	70.0%	目標値と実績値に差が出た要因	市民満足度調査では、生活環境全般についての設問となっているため、今回の計画の主たる事業である、道路整備等に連動して数値が向上することとはならず、目標値には至らなかったが、計画当初数値である66.7%からは上昇している現状から、今後も市民満足度調査において数値向上の一因となるよう道路整備等に努めていく。また今後も市民満足度調査のモニタリングにより、状況把握を継続して行っていく。
		最終実績値	67.8%		
	指標②-1「幹線道路整備」及び「交通の利便性」の市民満足度ポイント (pt)	最終目標値	3.25 pt	目標値と実績値に差が出た要因	満足度調査実施時点でも、市内各所において幹線道路整備がおこなわれており、工事中の箇所が市内に散在していたことから、交通利便性における満足度が得られなかったと推察した。今後も道路整備については計画的に市内各所で実施されるため、市民満足度調査や市民要望等をモニタリングしつつ、満足度の向上に努めていく。
		最終実績値	2.99 pt		
	指標②-2「生活道路整備」及び「歩行者に安全な道路」の市民満足度ポイント (pt)	最終目標値	3.10 pt	目標値と実績値に差が出た要因	当初数値である3.00ポイントからは上昇している現状から、今後も生活道路整備の継続、および付随する歩行者への安全性の配慮についても継続した施工を行っていく。
		最終実績値	3.05 pt		
	指標②-3 (舗装の健全率) = $\frac{\Sigma(\text{対象路線の舗装修繕必要延長})}{\Sigma(\text{対象路線の延長})}$	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	ほぼ計画通り、整備された。
		最終実績値	99.3%		

II 定量的指標の達成状況	指標②-4「自然の大切さを学び伝える機会に恵まれている」の市民満足度ポイント (pt)	最終目標値	3.12 pt	目標値と実績値に差が出た要因	<p>パッケージ計画である「都市再生整備計画 赤穂地区」での公園整備は主に平成27～28年度に行ったため、最終実績値時点での市民満足度調査 (H30年2月) では既に終了した事業という印象が強く、数値が伸びずに目標数値には到達しなかったと推察する。当初数値である3.03ポイントからは上昇している現状から、整備した公園の今後の利活用および、利用啓発に努めることとし、今後も市民満足度調査においてモニタリングを継続していく。</p> <p>交付金内示額等により、事業費を調整して行うため、計画延長には達しない状況となったが、長野県の社会資本総合整備計画 (パッケージ計画) へ移行し継続して整備に努めていく。</p> <p>本計画が終了した平成29年度以降に、別計画「都市再生整備計画 賑わいの都市部エリア地区」において駅前広場の整備が継続して行われており、車両の通行制限等がされている状況であること、また都市計画道路「中割経塚線」の国道153号線から西側の区間整備についても別計画にて継続して工事が行われていることから、今回の事後評価時での調査は行わず、今後、上記事業の進捗状況を見据えながら適切な時期にモニタリングを行っていく。</p> <p>本計画が終了した平成29年度以降に、別計画「都市再生整備計画 賑わいの都市部エリア地区」において駅前広場の整備が継続して行われており、車両の通行制限等がされている状況であること、また都市計画道路「中割経塚線」の国道153号線から西側の区間整備についても別計画にて継続して工事が行われていることから、今回の事後評価時での調査は行わず、今後、上記事業の進捗状況を見据えながら適切な時期にモニタリングを行っていく。</p>
		最終実績値	3.06 pt		
	指標③-1整備区間延長÷幹線道路総延長119.6km (%)	最終目標値	79.9%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	78.2%		
	指標③-2中心市街地のメイン通りである広小路通りの自動車交通量 (台数/1日あたり)	最終目標値	8,000台/日	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	—		
	指標③-3中心市街地のメイン通りである広小路通りの歩行者交通量 (人数/1日あたり)	最終目標値	750人/日	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	—		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 特記事項 (今後の方針等)					
安全・安心な市内交通環境整備を目指し、引き続き道路整備プログラムや、通学路交通安全プログラムに沿って道路整備、修繕等を実施していく。					

(参考図面)

